



「ゆめぴか通信」は、地域で働く看護職に向けて、鹿児島県看護協会保健師職能委員が作成し、情報発信する機関誌です。

平成29年度 第2回目の保健師研修会を開催しました！

一 保健師のための地域包括ケア実践講座 一

『多職種協働による地域包括ケア ～地域の力を知って、つないで～』

平成29年10月27日(金) 看護研修会館3階 大研修室にて開催

参加者58名

*報告：日本看護協会・保健師職能委員会活動報告 保健師職能委員長 西原 洋子

*基調講演「医療崩壊した夕張市民から学ぶ地域づくり」

講師：南日本ヘルスリサーチラボ代表 森田洋之氏

(前夕張市立診療所院長)



・夕張市が財政破たんして10年。病床は9割減となり、在宅医療がすすみ、訪問診療数が増加。高齢者人口は増加し、老衰での死亡が増加した。

・住民の意識が変わり、病院依存から「人事を尽くして天命を待つ！」最後まで自宅で生活したいと希望。

・近い将来の日本は、人口が激減する(人口オーナス期)。住民意識を変えないと乗り切れない。

★住民が医療に依存せず、地域で幸せに暮らし続けるためには・・・

① きずな貯金(地域のきずな、見守り)，

② 住民の意識改革(予防医学，天寿を待つ，最後まで自宅など)，

③ 在宅を支える医療・介護 が必要。

森田先生からのメッセージ

★地域の絆と住民の意識改革があれば住み慣れた地域で暮らし続けられる。これからの情勢も視野に、地域包括ケアを考え、多職種と連携できる保健師を目指してほしい！

*シンポジウム

テーマ「地域の力を知って、つないで」

シンポジスト

*深江久美子氏(薬剤師：肝付町高山薬局管理者)

*志村一展氏(理学療法士：いちき串木野市医師会立脳外科センター)

*窪まさ子氏(認定歯科衛生士：口腔ケアステーションえがお代表)

*西村るり子氏(保健師：チームMaru代表)



各分野で活躍されている4名の方に報告していただきました！

*シンポジストの報告&助言

深江 氏

薬剤師として薬局の窓口対応の傍ら、在宅訪問を始めて20年経過。重複多科受診や難病患者等への服薬支援を行い、地域包括支援センターや保健所、医療機関等との連携を図り活動している。残薬整理や要支援者への関わり等保健師との関わりもある。



志村 氏



理学療法士として、行政の保健師と協働して介護予防（ころばん体操）の支援に関わり、手ごたえを感じた。地域のリハ職のネットワークづくりを立ち上げ、地域リハの活動がうまく動き始めている。保健師はいろんな人を知っている。保健師が繋がらないと、地域包括ケアは進まないのでは。

窪 氏



出水市で歯科衛生士として長年活動。活動領域が広がり、母子健診事業から介護施設・医療機関での口腔ケア、健康教室など幅広く活動。口腔ケアステーションを立ち上げ、施設や在宅への訪問も増えている。保健師には、アンテナを高くし地域の支援が必要な人への関わりを大切にしてほしいとエールをいただいた。

西村 氏



保健師を早期退職後、ボランティア団体「チーム Maru」を立ち上げ、子どもの育ちを応援する居場所としてこども食堂を開設。開設にあたり多分野の地域住民の支援があり、地域の新しいつながりを実感。保健師力とは、気づき→開く→つながる→続けること。つながる先を見間違わず、継続すること。地域の活躍したい人を活用できるマネジメント力等も大事と。

*グループワーク「地域包括ケアに 保健師としてどうつながるか！」

◆グループワークの中から・・・

- ・住民の力、専門職の力、地域の力、保健師同士の力を信じる力を持ち続けること。
- ・皆がつながることを意識する場をより多く持つことで、さらに今以上つながっていけると思う。
- ・いろいろな分野の担当の悩み、成功・失敗事例を聞くことができ、自分の分野にも役立つ心構えなどを学ばせてもらいとてもよかった。
- ・「見る、つなぐ、動かす」のPHNの原点が、地域ケアシステムにあるのだと感じた。まずは知る、聞く、点と点を結ぶことなどしていきたい。
- ・コーディネータが必要だけど地域にある資源を知らなければつなぎようがない。活躍したいと思ってる人を活用できるよう、資源を知ることが大事にしていきたい。



和やかな雰囲気の中グループワークを行い、互いに交流を深めました！



《 次回研修会のご案内 》 **申込み受付中！！**
 平成30年1月26日（金） 午前10時～
 保健指導ミーティング「実践力アップ事例検討会」

事例の見かた、とらえ方が“スッキリ・なっとく”します！
多数ご参加ください。

★看護協会の新規・継続入会もお待ちしております！